

学際研究プロジェクトの創生に向けた 学内支援制度の紹介

August 30, 2017

京都大学 学術研究支援室

白井 哲哉

KURA

京都大学「基本理念」 (研究)

京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
京都大学は、**総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。**

学際研究を取り巻く環境の変化

学術研究の進展 → **分野の細分化・深化**

研究者に求められる役割の多様化 → **機会の減少**

社会課題の解決 → **学際研究の二一ズの高まり**

今、「学際研究を進める」環境・施策が必要



タイプに合わせた施策が必要

異分野

「融合」

≠

異分野

「連携」

学際融合の土壌を作る

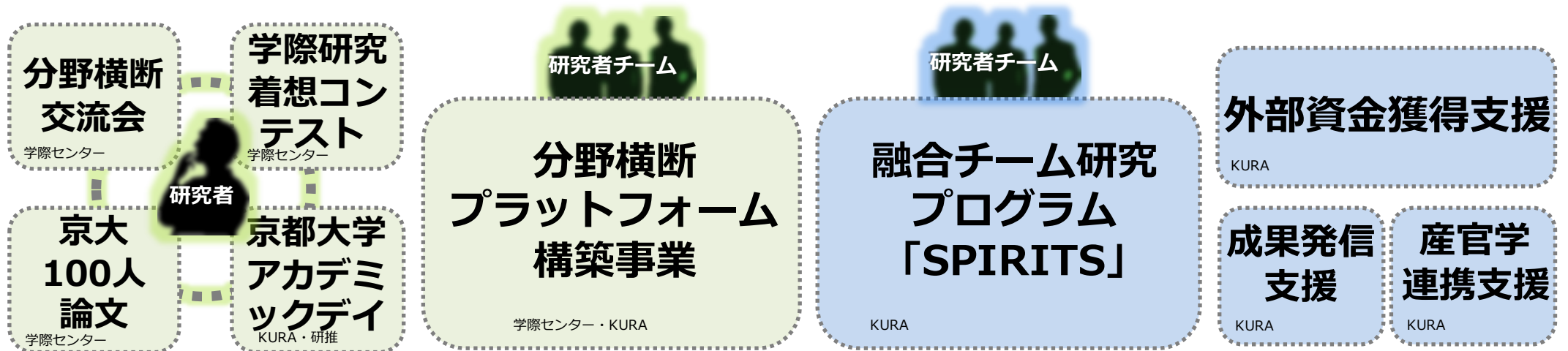
学際研究推進に向けた戦略的サポート

ボトムアップ型（異分野融合）

研究者「創発」

トップダウン型（異分野連携）

政策「課題解決」



KURA

×

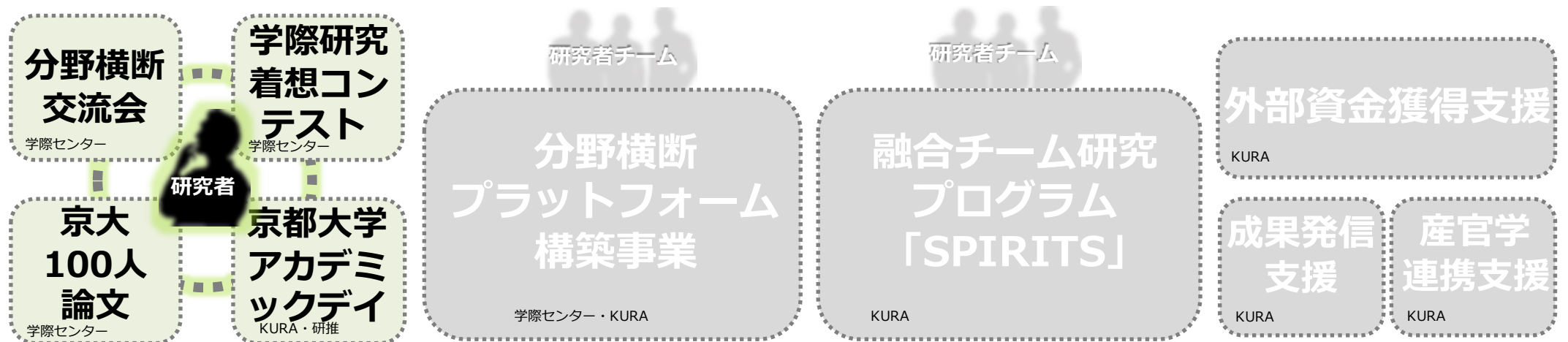


学際融合の土壌を作る

学際研究推進に向けた戦略的サポート ①

ボトムアップ型（異分野融合）
研究者「創発」

トップダウン型（異分野連携）
政策「課題解決」



学際研究のアイデアを醸成する機会・場を創出

学際研究着想コンテスト：学際研究のアイデアを競い、優秀者には賞金を授与

アカデミックデイ：異分野の研究者に、自らの研究を伝える方法・機会を提供

京大100人論文：求めている専門知識や技術をマッチングさせるお見合い企画

分野横断交流会：分野の異なる人々が、毎月出会える恒常的な出会いの場

学際研究推進に向けた戦略的サポート ②

ボトムアップ型（異分野融合）

研究者「創発」

トップダウン型（異分野連携）

政策「課題解決」



学際研究のアイデアの実現に向けての第一歩を支援

研究科/WSを企画し、新たな研究チームやネットワークを作るまでを支援

「研究会等の開催経費を支援」 「異分野の研究者による企画デザインを指南」

「研究者や関与者を紹介」 「新たな研究チームの成果発信支援」 etc.

※年間を通じ、面談によって支援研究者を決定

学際研究推進に向けた戦略的サポート ②

分野横断グループ分布図 (2017年3月13日更新)

学術志向



産学/社会連携志向

興味のあるグループをクリックして下さい。

人文
科学

社会
科学

NPO法人日本教育再興連...

移民の社会統合

言語復興の港プロジェクトグローバル政策イニシアテ...

グローバル政策イニシアティブ研究グループ

「誰かのために」知の横断...

複合国家イギリスに関する...

不便システム研究所

セックスワークセミナー

カボエイラ・アンゴラ国...

若手再エネ実践者研究会

アジア・太平洋海域世界縦...

ドローンフィールドサイエンスやすさ応援 実行委員会

多言語復興と環境共生型研究の異分野...

京都大学の環境・サステイ...

紀要編集者ネットワーク

東方キリスト教圏研究会チーム“GANTT”

日本庭園国際研究会JINのデザイン活動のオープンサイエ...

医食文化同僚プロジェクト

次世代デジタルアーカイブ技術に踏み込む人文・...

科学と芸術の交差点

愛とアイデンティティ研・架橋する伝統技術と現代技...

SHAPE JAPAN

Acceptable Intelligenc...

勇魚会 (海棲哺乳類の会)

内在性ウイルス様エレメン...

生物群横断系統地理の会

京都大学内ゼブラフィッシュ...

生物学をエンジョイしたい...

自然科学

分野横断グループ一覧

全て メンバー募集中 ワークショップ実施予定



● 紀要編集者ネットワーク

紀要の未来を語りませんか

ワークショップ実施予定



● アジア・太平洋海域世界縦横プロジェクト

東南アジアとオセアニアの海でつながる島々の世界を縦横して考えるプロジェクトです。



● 次世代デジタルアーカイブ研究会

様々な研究分野におけるデジタルアーカイブのこれまでとこれらについて考えています。



● 架橋する伝統技術と現代技術-未来の地球社会に我々は今何をすべきか

夢のある課題へむけて長期戦に挑むチャレンジ精神・ハングリー精神豊かな人、誰でも歓迎!

メンバー募集中



● 京都大学内ゼブラフィッシュ連絡会 (Kyoto University Zebrafish Users)

ゼブラフィッシュを使った研究を囃んでみませんか?

メンバー募集中



● 内在性ウイルス様エレメント研究会 (ENDEAVR)

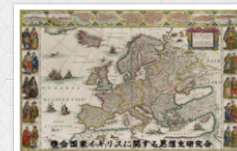
最先端のテクノロジーで太古のウイルスを研究するロマンに魅せられた研究者集団です。

メンバー募集中



● 不便システム研究所

ユーザに不便をもたらすシステムをデザインする方法を探索する



● 複合国家イギリスに関する思想史研究会

イギリスを複合国家として眺めるとその思想史叙述がどのように変わってくるのかをあれこれと議論します。

メンバー募集中



● 生物群横断系統地理の会

生物群の違いを飛び越えて「系統地理」で議論しましょう!

メンバー募集中



● 愛とアイデンティティ研究会

本気で愛を考える。

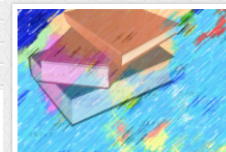


● 言語復興の港プロジェクト

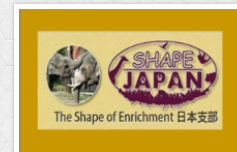


● 東方キリスト教圏研究会

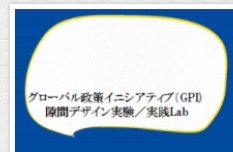
メンバー募集中



● 「現代/世界とは何か?」研究班



● SHAPE JAPAN



● グローバル政策イニシアティブ (GPI) 期間デザイン実験/実践Lab

<http://research.kyoto-u.ac.jp/gp/>

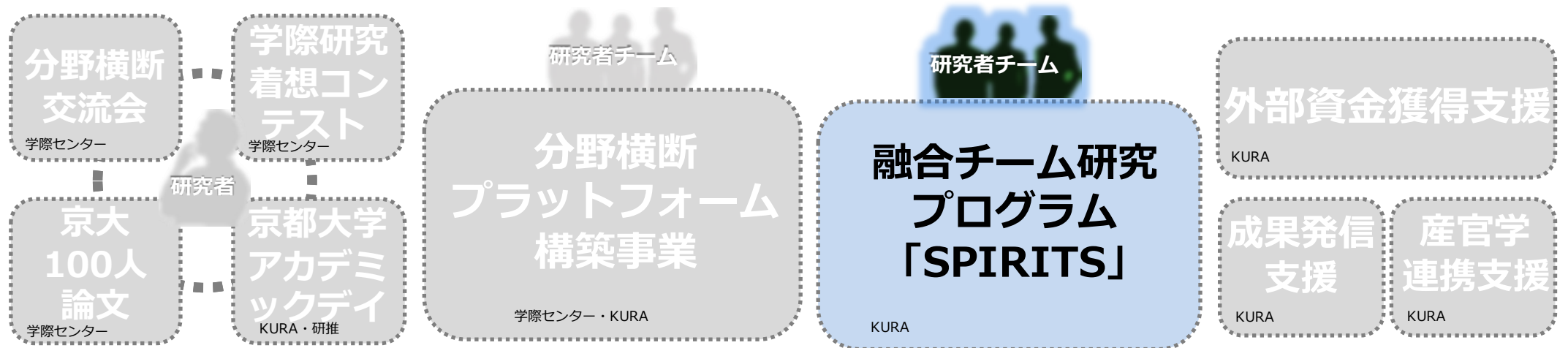
学際研究推進に向けた戦略的サポート ③

ボトムアップ型（異分野融合）

研究者「創発」

トップダウン型（異分野連携）

政策「課題解決」



学際研究を発展させるためのファンドを企画・運営

新たな研究に挑戦するチームを、2年間にわたり支援

経費の支援の他、URAがチームの中に入り伴走支援

研究の発展だけでなく、プロジェクトマネージャー型の研究者を輩出

研究マインドを共有するURAの育成も行う

学際研究推進に向けた戦略的サポート ③

京都大学
kyoto university

SPIRITS

SUPPORTING PROGRAM FOR INTERACTION-BASED
INITIATIVE TEAM STUDIES

<http://research.kyoto-u.ac.jp/service/topic/spirits/>

成果報告書

Project Achievements and
Future Prospects

京都大学を拠点とする領域横断型の生命倫理の研究・教育体制の構築 学術情報基盤の未到達領域への挑戦

Establishing an interdisciplinary bioethics research and education network with Kyoto University as the hub

研究スローガン

京都大学を拠点とする領域横断型の
生命倫理の研究・教育体制の構築

キーワード

生命倫理学、終末期医療、研究公正、
ゲノム編集、臨床倫理

Project Gist

Establishing an interdisciplinary
bioethics research and
education network with Kyoto
University as the hub

Keywords

bioethics, end-of-life care,
research integrity, genome-
editing, clinical ethics

研究背景及び目的

先端医学のめざましい進展に伴い問われる研究の適正さや、超高齢化社会となり増加する認知症患者への対応など、いま医療に関わる倫理的・法的・社会的な問題が新たに生じています。こうした問題を考えるには、医学の研究者や医療従事者だけではなく、法学者や哲学・倫理学者などが協力して取り組む必要があります。このプロジェクトは様々な領域の専門家の研究共同体を整えることで、医療や医学研究に関わる倫理的・法的・社会的問題の解決を目指します。

成果の要約

学内外の人々と研究成果を共有するため、事務局を設置している応用哲学倫理学教育研究センター(CAPE)のウェブサイト上で、生命倫理に関する資料の公開や、オンラインでの質問コーナーの導入を行いました(<http://www.cape.bun.kyoto-u.ac.jp/project/project02/>)。また、国際的な研究ネットワーク構築のため、イギリスのブリストル大学や臺州のモナシュ大学などと共同で研究会を開催し、多くの研究者との議論の場としました。

今後の展望

生命倫理入門コースなどの開催により次世代の生命倫理研究者育成のための基盤作りを引き続き進めます。

Background, and Purpose

New ethical-legal-social issues concerning medicine are emerging. For example, the integrity of medical research is sometimes questioned as it makes rapid advances, or the provision of care for people with dementia is becoming a more serious problem in the super-ageing society. To tackle these issues, not only medical researchers and practitioners but experts in the field of law, philosophy, ethics and other areas also need to work together. This project aims to build an interdisciplinary research network of specialists in different fields in order to help solving the ethical, legal and social issues surrounding medical research and health care.

Project Achievements

In order to build an international as well as interdisciplinary network of researchers related to the interdisciplinary field of bioethics, we held several symposia and workshops with the support of researchers from Bristol University, Monash University, National Central University, and the University of Cambridge. A Center for Applied Philosophy and Ethics of CARE has been established. The center provides many materials related to bioethics research and education, and an online discussion board (<http://www.cape.bun.kyoto-u.ac.jp/project/project02/>).

Future Prospects

We will have more symposia and workshops related to ethical issues surrounding medical research and health care, and continue to build a stronger network of international and interdisciplinary researchers interested in the field of bioethics. We will also continue to hold introductory seminars and courses for bioethics, in order to create the right environment for young scholars to obtain excellent education in bioethics and pursue a career in areas related to bioethics.



◀京都大学アカデミックデイ2015(2015年10月4日)において出展したゲノム編集の倫理に関するポスターの一部
Poster regarding the ethics of genome editing, presented at Kyoto University Academic Day 2015 (Oct. 4, 2015)



◀ブリストル大学との研究公正に関する国際共同ワークショップ(2015年3月19日、京都大学)
Group photo taken at the international workshop on research integrity in collaboration with Bristol University (Mar. 19, 2015, at Kyoto University)



代表者情報

・代表者氏名 児玉聡
・所属部署名 文学研究科
・自己紹介

京都大学文学部卒、同大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(文学、京都大学)。東京大学大学院医学部系研究科で医療倫理の助手・講師を務めた後、現職。専門は英米近現代倫理学および生命倫理学。
・関連 URL <http://www.cape.bun.kyoto-u.ac.jp/>

Principal Investigator

・KODAMA Satoshi
・Graduate School of Letters

Kyoto University School of Letters and received Ph.D from Kyoto University. He worked as an assistant professor and then lecturer for medical ethics at the University of Tokyo Graduate School of Medicine before taking up the current position. His research interests include Anglo-American modern moral philosophy and bioethics.
・ <http://www.cape.bun.kyoto-u.ac.jp/>

学際研究推進に向けた戦略的サポート（実績）

フェーズ

アイデア
創出

アイデア
醸成

プロジェクト
検討

チーム
形成

プロジェクト
試行

プロジェクト
発展

タイプ

ボトムアップ型（異分野融合）
研究者「創発」

トップダウン型（異分野連携）
政策「課題解決」

施策

分野横断
交流会

学際センター

学際研究
着想コン
テスト

学際センター

京大
100人
論文

学際センター

京都大学
アカデミ
ックデイ

KURA・研推

研究者

研究者チーム

分野横断
プラットフォーム
構築事業

学際センター・KURA

研究者チーム

融合チーム研究
プログラム
「SPIRITS」

KURA

外部資金獲得支援

KURA

成果発信
支援

KURA

産官学
連携支援

KURA

URA
活動

URA：学内関連組織連携

学際研究のアイデアが芽
吹くための機会・場を
学際融合教育研究推進セ
ンターが中心となり創出
プロジェクトへの発展を
URAと連携しサポート

URA：企画・運営

H25-28年度実績
新規の学際研究の
WS/研究会の創出

計60件

企画・運営
URA：伴走支援（PM）

H25-28年度実績
新規の学際研究
プロジェクト推進

計29件

URA：各種支援

学際的なファンドの獲得支援

研究を発展させるための、協力者とのマッチングや、広報などもサポート

学際研究推進に向けた戦略的サポート（成果）

【研究成果】

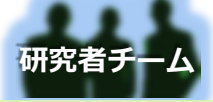
研究プロジェクトの継続・創発（外部資金の獲得）

研究成果の公開（論文、書籍、メディア）

研究会の継続、コミュニティの拡大



研究者チーム



研究者チーム

新たなネットワークが作れた

研究に広がりができた

（異なる研究者との）共通の分析枠組みができた

（研究会等の）企画をつくる勉強ができた

科学を俯瞰する視点が育成された

新たな分野へのチャレンジ精神が得られた

学際研究推進に向けた戦略的サポート（成果）

サポートの結果として研究者に備わる「力」

学際力

- ・ 多様な視点/広い視野
- ・ チャレンジ精神/積極性
- ・ 広い人脈/人脈作り
- ・ 異分野の知見や情報
- ・ 異分野の人との議論
- ・ 研究協力者の獲得
- ・ 軽いフットワーク

国際力

+

学術的 探求心

研究者が
備えている力

+

発信力

- ・ 学術雑誌/論文
- ・ 書籍/出版
- ・ 非専門家への発信
- ・ マスメディア利用方法

PM力

- ・ 企画立案力
- ・ 運営ノウハウ
- ・ 明確なコンセプト
- ・ 事務能力
- ・ コミュニケーション力
- ・ 可能性/有効性の把握
- ・ アンテナを張る力